

総文祭での募金を 豪雨災害被災地へ

駒工の助っ人同好会

駒ヶ根工業高校(駒ヶ根市)の助っ人同好会は8月31日、今月県内で開かれた第42回全国高校総合文化祭「2018信州総文祭」に参加した際に募った募金13万9173円を、西日本豪雨災害の義援金として寄付した。3年生の西野諒太会長(18)ら5人が駒ヶ根市役所を訪れ、日本赤十字社駒ヶ根地区長の杉本幸治市長に託した。

同好会は市のPRキャラクター「こまかつぱ」など、ご当地キャラクターのグッズ製作を生かした「被災地支援プロジェクト」に取り組んでいる。

義援金を手渡す駒工助っ人同好会の西野会長ら



今回、西日本豪雨災害で広島県の呉工業高校が総文祭への参加を断念したことを知り、駒ヶ根市や茅野市の会場で寄付活動を展開。レーザー加工機やプリンターを使い製作した、こまかつぱや信州総文祭

マスコットキャラクター「信州なび助」の亚克力製ストラップをプレゼントするなどして協力を呼び掛けた。

ストラップは600個以上を配ったといい、「多くの人が足を止めて協力してくれた。今回の活動が少しでも呉工業高校や被災地の励ましになればうれしい」と西野会長。杉本市長は「皆さんの思いをしっかりと現地に届けた」と感謝し、「助け合いの心をこれからも大切にしてほしい」と呼び掛けていた。

(高島剛志)